

北米、ハワイ、ブラジルへの伝道

北米、ハワイ、ブラジルへの伝道は日本の海外移民と密接に関わりがある。明治から昭和初期にかけてハワイ、北米、ブラジルへ多くの日本人が移民として渡ったが、この中の天理教信者が布教師になったり、最初から布教師として渡った人もある。

3地域の現在の教会数は北米がアメリカ本土 58、カナダ 4、計 62 カ所。ハワイは 34 カ所。ブラジルは 90 カ所である（『みちのとも』立教 177 年 6 月号）。よふぼく数はアメリカ 1,775 人、カナダ 222 人、ハワイ 821 人、ブラジル 6,879 人とブラジルが群を抜いて多い（『第 82 回天理教統計年鑑』）。

以下、北米、ハワイ、ブラジルの伝道を順に述べる。

1896 年（明治 29）、船場分教会（現大教会）3 人の若者がアメリカ伝道を計画したが、渡航したのは 1 人だけで成果をあげることなく終わった。3 人は 20 歳前の若者だった。

同じ頃、1895 年熊本県人緒方新蔵が出稼ぎのため渡米した。緒方は信者ではなかったが、甥の東田春雄からの手紙で天理教を知り 1913 年（大正 2）帰国、よふぼくになった。1927 年（昭和 2）再渡米後、東肥分教会（現大教会）に布教師派遣を依頼し、東田春雄が行くことになった。1927 年カリフォルニア州政府の許可を得てロスアンゼルスにノウスアメリカ教会を設立した（本部認可は 1933 年）。

甲府系東山梨出張所（現分教会）の神沢常太郎は教会借財返済のため、1903 年（明治 36）アメリカへ渡り鉄道工夫や炭鉱夫として働いた。サンフランシスコで始めた洗濯屋で大きな収入を得、出張所に送金した。近隣の人たちへのおたすけもあがり、1927 年（昭和 2）サンフランシスコ教会を設立した。甲府の上級名京大教会では大教会長、役員が渡米し、カリフォルニア、オレゴン、ワシントンの各州を巡教した。巡教は二次、三次と続き、サンフランシスコ教会の他、毎年教会の設立が続いた。

海外伝道に特別な思いを持っていた本島の片山好造は、アメリカの移民法がアジア人を排斥しても布教師なら入国出来ることを知り、1927 年（昭和 2）岡崎ヨ子と鳥沢林蔵をアメリカへ派遣した。岡崎はポートランドに住む義弟岡崎薫夫を頼り、ポートランド、シアトル間を布教した。4 カ月の間に信者が増え、翌年ポートランド教会とシアトル教会が設立された。

カナダへの移民は 1887 年（明治 20）頃から始まり、日本人は西海岸ブリティッシュコロンビア州で漁業や製材業に就労していた。その中に高安、筑紫、本島の各教会の信者たちが働きながらおたすけをしていた。本島の柴田エイはバンクーバー教会の名称を頂いてカナダにやって来た。ところが一旦帰国し、再入国しようとしたところ、移民法の関係でどうしてもカナダへ入ることができなくなった。信者たちは協議を重ね、「加奈陀天理教会」という社会団体を作ったが、柴田の再渡航を断念せざるを得なくなった頃、二代真柱がシカゴ世界宗教会議に出席されたので実状をご覧頂いたところ、在カナダの信者を統合し本部直轄の加奈陀教会として設立して頂くことになった。初代会長として 1934 年（昭和 9）鈴木亨が本部から派遣された。

現在北米には教会が 62 カ所あるが、その大半は多くの日系人が住むカリフォルニア州である。カナダにはバンクーバーとトロントに各 2 カ所、計 4 カ所の教会がある。

ハワイへの日本人官約移民は 1885 年（明治 18）から始まり 1894 年（明治 27）以降は自由移民となった。1908 年（明治 41）周東支教会（現大教会）の三国又五郎は教会財政立て直しのため出稼ぎ目的でオアフ島ホノルルへ渡り、仕事をしながらおたすけをしていた。

1929 年（昭和 4）本島系布教師上野作次郎、津志夫妻が片山好

造の意を受けてハワイ布教に出た。片山は海外布教に熱い思いを持ちいろんな布教アイデアを弟子たちに実行させていた。この構想の中、上野夫妻が選ばれた。

上野は出発に際し本部から教会設置の認可を得ていた。到着すると日系新聞に「日本から天理教の布教師来たる」と報道され、先住の信者たちが上野夫妻を訪ね、盛んに信仰談義をした。上野は翌 1930 年（昭和 5）、ホノルル教会の看板を掲げた。

上野夫妻の布教に信者たちは刺激を受け、おたすけをする人が増えた。三国も上級名東中教会（現大教会）に布教師派遣を依頼した。名東から柏原義則らが派遣され、ハワイ各地を回って布教した。その効果があり 1931 年（昭和 6）三国又五郎を会長に太平洋教会が設置された。

その後もハワイでは教会設立が続き、戦争までに教会が 21 カ所となった。系統別では、本島系 12、周東系 5、天元、防府、東肥、尾道が各 1 カ所である。

ハワイには現在 34 の教会がある。その大半はホノルルのあるオアフ島で 24 カ所。他ではハワイ島 6、マウイ島 3、カウアイ島 1 である。

ブラジルは 1908 年（明治 41）日本人の移民が始まり、1914 年（大正 3）頃には天理教信者でブラジルへ渡った人がいた。昭和 10 年には 60～70 人のよふぼくがいたという。

1926 年（大正 15）の教祖 40 年祭頃、教内には海外伝道への関心が高まった。南海大教会ではこの機にブラジル伝道を計画、1929 年（昭和 4）和歌山県の幹旋で 10 家族を集団移民させた。

サントス丸で 48 日かかってブラジルに着き、奥地チエテに入植したが、そこは水も十分にない荒れた土地だった。生活するのがやっとで布教どころではなかった。南海移民団のリーダーがどこかへ布教に行く者はいないかと聞いたところ、若き大竹忠治郎が手を挙げた。大竹はバウルーにて単独布教し、しばらくして夫婦で布教に歩いた。

教祖 50 年祭を翌年にひかえた 1935 年（昭和 10）、日伯経済使節団の一員として渡伯した岩井尊人（道友社同人）がブラジル教友へ向けた二代真柱のメッセージを届けた。ぢばの声に感激した人たちは教祖 50 年祭への団参を計画、大竹を団長に 150 人がおぢばの土を踏んだ。この時、大竹はバウルー教会設置を許され初代会長に就任した。

バウルー教会設立の前年、ブラジル最初の教会としてノロエステ教会（北）が、またバウルーと同じ年にパウリスタ教会（南海）など 4 教会が設立され、翌 12 年にも 3 教会が認可された。

ブラジルの天理教伝道は南海の集団移民と、二代真柱のメッセージが大きな転換点になった。ブラジルは日本から最も遠い国である。おぢばへ帰ることは大変で、それだけにぢばの声を聞いた信仰者の喜びは大きかった。

ブラジルには 1937 年（昭和 12）までに 9 カ所の教会が設立された。南海が 3、中和が 2、北、防府、熊本、明城が各 1 カ所である。

1951 年（昭和 26）、ブラジル伝道庁がバウルーに設置され、大竹忠治郎が初代庁長に就任した。大竹は日本から遠く離れたブラジルの信者たちに教義やおてふりを仕込むため錬成道場など様々な試みを実施した。ブラジルはぢばから遠く離れているため、大竹たちは信者の教化育成に心を砕いた。ブラジル修養会は教会本部修養科と同じ資格が与えられ、1964 年（昭和 39）の第 1 回以来 100 回以上開催されている。

現在ブラジル全 7 州の内、教会、布教所、講社のない州は 3 州のみであるという。